

1. 日時 令和4年2月10日(木)第2校時
2. 場所 2年B組教室
3. 授業名 コミュニケーション英語II
4. 対象 2年B組(40名)
5. 教科書名 Perspective English Communication II (第一学習社)
6. 単元名 Lesson 9 “A Long Voyage for Friendship”

7. 科目の学習目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする能力を伸ばす。

8. 単元の目標

- (1)題材内容: エルトゥールル号事件とイラン・イラク戦争中のトルコ航空による在イラン邦人救出劇について学び、人々の真心と勇気が「国際交流」や「世界平和」にどのように繋がるのかということを考える。
- (2)言語材料: 新出語彙及び文構造(進行形(受動態)、完了不定詞)の知識を身に付ける。
- (3)言語活動: 理解した内容に基づき英問英答をする。本文を適切に音読する。理解した内容を踏まえて、自分の考えを述べる。本文を自分の言葉で要約する。

9. 単元の指導計画(9時間)

第1時	単元の導入、Part1 & 2 速読
第2時	Part1 新出語彙、リスニング、内容理解
第3時	Part1 内容理解、音読
第4時	Part1 要約、意見交換、Part 2 新出語彙
第5時	Part2 リスニング、内容理解
第6時	Part2 内容理解
第7時 (本時)	Part2 音読、ライティング活動
第8時	Part 3 & 4 速読(定期考査範囲外)
第9時	復習

10. 単元の評価計画

(1) 評価規準

	関心・意欲・態度【関】	表現の能力【表】	理解の能力【理】	知識・理解【知】
具体的な 評価規準	課題をしている。 クラスでの発言がある。 ペアやグループの活動に積極的に取り組んでいる。	情報・考えを整理し、書いたり、話したりできる。聞き手に伝わる音読ができる。	聞いたり読んだりして、本文の内容や他者の発表を正確に理解することができる。	新出語彙と文法の知識を身に付け、運用することができる。
評価方法	Oral Introduction、新出語彙確認、英問英答、本文音読、ライティング活動	英問英答、本文音読、意見交換、ライティング活動	リスニング、英問英答、意見交換、ライティング活動	新出語彙確認、英問英答、本文音読、精読問題、ライティング活動

## 11. 本時の展開

### (1) 本時の目標

- ・ 和歌山の人々の懸命な救助活動の様子を本文から読みとり、エルトゥール号の生存者の気持ちを想像して、お礼の手紙を書く。
- ・ クラスメイトが書いたお礼の手紙を読み、それを受け取った和歌山の人々の気持ちを想像して、返事を書く。
- ・ 人々の真心と勇気が「国際交流」や「世界平和」にどのように繋がるのかということを考える。

### (2) 本時の指導過程

過程	学習の活動	教師の指導と留意点	評価観点 [評価方法]
導入 (10分)	<p>●音読</p> <p>○本文の内容を思い出しながら、リピートとシャドーイングをする。</p>	<p>○音源を流す。リピートではチャンク毎に発音とアクセントに注意させる。</p>	
展開 (30分)	<p>●音読(3分)</p> <p>○本文の抜粋をペアで1段落ずつ音読する。</p> <p>●意見交換(5分)</p> <p>○救助活動の描写の中で最も感動した所とその理由をペアで意見交換する。</p> <p>●ライティング活動(20分)</p> <p>○エルトゥール号の生存者の気持ちを想像して、お礼の手紙を書く。(10分)</p> <p>○クラスメイトが書いた手紙を読み、それを受け取った和歌山の人々の気持ちを想像して返事を書く。(3分×3回)</p>	<p>○ハンドアウトを配付する。</p> <p>○救助の具体的な描写に着目させる。分からない箇所があれば生徒間で確認させ合う。</p> <p>○個人で作業する時間をとってから、ペアで意見交換させる。</p> <p>○本文中最も感動した内容を盛り込むことで、具体的で心のこもった文面にするよう伝える。</p> <p>○生徒の中に入って同じ活動をしなが、時間を計り活動を進行する。</p>	<p>【関】ペアワークに積極的に取り組んでいる。【観察】</p> <p>【表】情報や考えを整理して書くことができる。 [ハンドアウトの記入状況]</p>
まとめ (10分)	<p>●ビデオ視聴</p> <p>○救出活動に参加した人の息子さんのインタビュー動画を視聴する。(3分)</p> <p>○国際交流や世界平和に繋がるキーワードを考えて、ペア、クラスで共有する。</p>	<p>○視聴後、インタビューから伺い知ることができる救助活動に参加した人の気持ちは生徒の想像と同じだったかを問いつつ、改めて本文の内容を振り返る。</p> <p>○生徒から出てきたキーワードを板書して共有する。</p>	